

● 第9回浜松国際 ピアノコンクール

青澤唯夫

浜松国際ピアノコンクールは、2015年11月から第9回が開催され、成功のうちに終わった。1991年、浜松市が市政80周年を記念し〈楽器と音楽のまち〉に相応しい文化事業として創始し、3年に1度開催されている。3年というのは、若者が修業時代に2度、3度とチャレンジするのも可能なわけで、よいインターバルだなと私は思う。2015年は5年に1度のショパン・コンクール、4年に1度のチャイコフスキー・コンクール、3年に1度のリーズ・コンクールなど世界のメジャー・コンクールの開催年が重なって話題を集めたが、浜松は2014年12月にユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野にアジアで初めて加盟したこともあって、コンクール開催への意欲や期待が熱く盛り上がっていた。これまで4半世紀に及ぶ歴史を経て、ガヴリリユク、ドンヒョク、上原彰子、ブレハッチ、コプリン、ゴルラッチ、北村朋幹、チョ・ソンジン、デュモン、ラシュコフスキー、中桐望、佐藤卓史、ツイブライエフなど新たな才能を世に送り出し、入賞者たちの華々しい活躍からも豊かな成果が表れている。

第9回は前回は大きく上回る42カ国1地域449名の応募者で、浜松国際ピアノコンクールの認知度が国際的に高まっている結果だろう。審査は委員長の高老彰子以下、アルゲリッチ、ババヤン、ゴットリーブ、ハン・ドンイル、ヤシンスキ、キルシュナイト、リ・ジエン、ネルセシアン、ケフェレック、植田克己と著名な音楽家を揃えた豪華な顔ぶれ。応募者はDVDによる予備審査で87名に絞られた。11月21日アクトシティ浜松大ホールでの前回優勝者ラシュコフスキーのオープニングコンサートに始まり、翌22日から第1次予選がスタート。課題曲はハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンのいずれかのソナタ全曲と練習曲以外の自由曲（出版されている作品に限る）。24名が進んだ第2次予選はロマン派、近代、現代作品のほかに、コンクールが委嘱した新作が課題曲。三輪真弘の『「虹機械」はじまりのうた』と山根明季子の『イルミネイテッドベイビー』で、三輪作品を3名、山根作品を21名が演奏した。

課題曲からエチュード類が除外され、練習曲を弾く能力は予備審査でチェックし、演奏技術の未熟な人は除外されたため、音楽内容に集中できたのは会場を埋めた聴衆にも幸いだったと思われる。第3次予選の課題曲には、モーツァルトのピアノ四重奏曲（K.478、K.493のどちらか）が指定され、弦楽器奏者は豊嶋泰嗣（vn）、磯村和英（vla）、上村昇（vc）のグループと漆原啓子（vn）、鈴木康浩（vla）、向山佳絵子（vc）のグループという腕達者揃いの共演陣。基礎的な音楽能力、アンサンブル能力が試され、自由な選択による独奏曲を含めて演奏時間70分。ミニ・リサイタルの趣があり、聴衆も楽しめたことだろう。

私は12月1日、2日の第3次予選（アクトシティ浜松中ホール）、5日と6日のコンチェルトによる本選（アクトシティ浜松大ホール）、審査委員のマスタークラス、入賞者披露演奏会（7日アクトシティ浜松大ホール、8日東京文化会館小ホール）を聴いた。強く印象に残ったのはロパティンスキーで四重奏曲でのバランス感覚とテンポのよさが光り、音楽の表情がよく伝わ

ってきた。ミトレアの室内楽での演奏能力の高さも出色。ガジェヴは音色の美しさ、抒情性、歌ごころが魅力的。最年少のシューは清新さ、明快な表現がよかった。ムーサは色彩感豊かで濃密な演奏。日本人が本選に残れなかったのはいかにも残念だが、3次予選に進んだ三浦謙司はスケールが大きく、エネルギッシュな演奏で健闘。

本選は、課題曲に指定されたモーツァルトからプロコフィエフにいたる33の協奏曲から各自が選び、高関健指揮の東京交響楽団と共演したが、ロシアの協奏曲ばかりが選曲された。若い出場者にコンチェルトのレパートリーが少ないのはやむを得ないが、もっと多様な作品を聴きたかった聴衆も多かったと思われる。最終結果は、第1位がアレクサンデル・ガジェヴ（20歳、イタリア）。札幌市長賞・聴衆賞も受賞。イタリア出身だが、両親はスロヴェニア、ロシア系らしい。第2位はロマン・ロパティンスキー（22歳、ウクライナ）。第3位は3人いて、アレクセイ・メリニコフ（25歳、ロシア）、ダニエル・シュー（18歳、アメリカ）、アレクシヤ・ムーサ（26歳、ギリシャ／ベネズエラ）。第4位はフロリアン・ミトレア（26歳、ルーマニア）、室内楽賞も受賞。日本人作品最優秀演奏賞はイーゴリ・アンドレエフ（27歳、ロシア）。奨励賞は三浦謙司（22歳、日本）。

コンクールに運・不運はつきものだが、浜松でのさまざまな出会いや貴重な経験を糧やバネにして、大きな音楽家に育ってほしいと願っている。

（なお、私が執筆した『音楽現代』、『モーストリー・クラシック』、『浜松市コンクール報告書』の記事と内容的に重複する部分があります）